世界初の「iPS細胞手術」を行ったと主張し、物議をかもした医科学研究者の森口尚史氏。本人に虚言癖と有名病があるのは確かだが、それを見抜けなかった大新聞記者、メディアはどうなっているのだろうか？

日本は肩書社会とされ、肩書さえあれば発言は信用されるという半面、そこには大きな落とし穴が待っている。森口氏は、米ハーバード大学客員講師、あるいは東大の特任研究員などと名乗った。しかし、東大医学部では、「特任」と付く人は多すぎて、担当教授以外は把握しようがないという。

そんなことも含めて、小学館の『週刊ポスト』（2012年11月2日号）の「検証　前代未聞の大誤報　PART　」で医療ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員　田辺功氏と対談した。

検証 前代未聞の大誤報 PART2

医療・科学ジャーナリスト対談

なぜわが国の科学報道はかくも拙劣なのか



富家孝
（医学ジャーナリスト）

VS



田辺功
（社会ジャーナリスト
元朝日新聞編集委員）

大マスコミの「馴りあい」も酷いが、「そもそも多少でも科学的な知識があれば、森口氏のウソを見抜けたはず」――医師でジャーナリストの富家孝氏と元朝日新聞編集委員で医療ジャーナリストの田辺功氏は、こう口を揃える。

在野のプロとして医療問題に鋭いメスを入れてきた2人が、捏造疑惑の本質を語り合った。

＊

富家　読売の第一報を見た時、山中教授のノーベル賞が決まった直後にこんな記事が出るなんて、あまりにタイミングが良すぎるなと思いましたね。本当だったら、これもノーベル賞ものですよ。驚いてすぐに森口氏の母校の東京医科歯科大の知り合いに問い合わせたら、「そんな人間はまったく知らない」という。狭い業界なのに、同じ大学の関係者が知らないのはおかしいなと思いました。

田辺　私がまずアレッと思ったのは、iPS細胞を山中教授と違う方法でつくったと書かれていたこと。山中教授のは前駆細胞に4つぐらいの遺伝子を導入する方法なのに、森口氏はたんぱく質を入れて生成したという。それも前代未聞で、事実なら大変なこと。本当に可能なのかと首を傾げざるをえませんでした。

富家　おかしい点はまだまだある。森口氏は医師ではなく、看護師の資格しか持っていなかった。最先端の臨床研究に看護師の資格で立ち会うなんて、医療の現場を知る人ならありえないとわかったはずです。読売の記者は、そこから疑わなければいけなかった。

田辺　私も同感です。そもそも読売の記者はこの"スクープ"を書く前に、森口氏が医師免許を持っているのか確認していなかったのでしょう。もし看護師の資格しかないとわかっていれば、その人が中心メンバーとしてこれほどの大プロジェクトを仕切れるわけがない。私の経験からいって、科学部の記者だったら、すぐにピンときたはずです。

富家　森口氏は、心筋細胞を"ドクドクしているヤツですね"と説明していますが、専門家ならそんな表現はしないですよ。

そのおかしさに気づかないほど記者の質の低下は著しい。最近は科学部の記者でも、医師と医学博士がまったく別物だということすら理解していない。医師は国家試験に合格して医師免許を取得した人。医学博士は大学院で学び、論文を作成し、それが医学部の審査にパスして「学位」を取得

富家孝（ふけ・たかし）／1947年、大阪府生まれ。72年に東京慈恵会医科大学卒業後、開業して病院を経営。日本女子体育大学助教授、早稲田大学講師などを経て、現在は医療ジャーナリストとして活動するとともに、新日本プロレス・コミッションドクターを務める。